

小さな部品に込める高い安全性

株式会社 イズラシ

株式会社イズラシはナットなどの自動車部品を製造している。沼津市で80年間経営してきた背景には、1個の部品に込める高い安全性があった。また福利厚生施設であるiSSIC健身塾について取材した。

1939年、イズラシは田方郡戸田村（現沼津市戸田）で創業した。当初産業に必要不可欠なボルト（雄ねじ）類を製造していた。その後1958年にはナット（雌ねじ）類の製造に転換した。製造・販売している各種製品群の中でもセルフロックナットには、緩みや戻りを防ぐ工夫が施されている。自動車のサスペンションやサスペンションアームに使われるナットは、鉄の溝に鉄の溝が付くから

社員も地域も健康に



本社に隣接しているiSSIC健身塾は、イズラシの福利厚生施設として作られたトレーニング施設だ。イズラシの社員はもちろんのこと、一般の会員も利用でき、休日には約80人の会員が利用している。施設内には、持久力を高めることがで



▲ジムには多くのマシンが並び

きる低酸素ルームや、脳を中心とした身体機能をトレーニングするマシンが多く並び、本格的なトレーニングができる。マシンの一部はイズラシで製造されており、自動車部品で培われた技術が意外なところに活用されている。

「良い製品は社内環境から」 長年、沼津で会社を構えてきたイズラシは社員同士のつながりも強い。その人材育成に欠かせないのが「6S活動」と呼ばれる「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法」だ。「人間性が出る」と



(左から)小川さん、高田さん、河上さん

れていて、戻り止め機能の役割を果たす。製造工程で不具合品を仕分けるときは、1台につき複数箇所カメラが取り付けられた画像検査機で検査する。品質基準の厳しいカーメーカーに匹敵する高品質の部品を生み出している。

いう「清掃」は、製造過程で油汚れが出る工場内の隅々まで清掃され、本社・沼津工場・戸田工場・の清潔さを維持している。目標を「お客様の信頼第一にスピードと情熱を持って50億円企業に挑戦」とするイズラシ。沼津で築いてきた技術と人間性で目標に挑み続ける。

地域密着型の建設会社 株式会社 大志建設

株式会社大志建設は沼津市西沢田にある、土木事業を主とする建設会社だ。「地域に必要とされる存在に」をモットーに、昭和61年から活動している。現在は「街づくりのお手伝い」をすべく地域密着型の多岐にわたる活動をしている。

ような仕事も積極的に引き受けることによって地域の皆さんと信頼関係を築けるように努力しています」と仕事内容と、地域貢献することの良さを語った。

地域に必要とされる存在に

大志建設はアットホームな会社だ。毎

日は前日にあつた感謝すべきことを思い起こし、仕事終わりに従業員皆でお菓子を食べながら談笑する。社長の杉澤教人さんは「トラブルの8割は人間関係です。従業員同士の意思疎通を図ることにより効率的に仕事ができるようにしています」と話した。大志建設は昭和61年の創業以来「地域に必要とされる存在に」という方針の下、地元沼津市がよりよくなるように活動している。



杉澤教人さん

では実際にどのようなことを行っているのか。杉澤さんは「依頼された仕事はできるだけ引き受けられるようにしています。例えば以前、沼津市からイノシシの遺骸の埋葬を依頼され、担当しました。また、造園業を営んでいることもあり、千本浜の松の移植工事を依頼されたこともあり、人が敬遠するた。

現在、沼津市をはじめとする地方では若者の人口流出が課題だ。それに対して杉澤さんは「若者の流出は大きな問題ですが、仕方のない一面もあります。地元から出て、そこで得た知識や技術をいずれは地元に戻元してほしいです」と語った。

編集後記



▲沼東新聞部 担当者

私たちは沼津市をホームタウンとした企業を2社取材したが、どちらも地域と密接に関わっているということが分かった。またイズラシは世界に誇る技術を持ち、大志建設は市や住民の多くから信頼され、その信頼に応えた活動をしていることも知り、沼津市にもこのような魅力的な会社が存在することに気づいた。

若者は東京などの都会に憧れがちだ。しかし、地元にもこのような素晴らしい企業があることを知り、地元で貢献すること、生活することの良さを再認識したい。様々なことを学び、地元で役立たせることも大切だ。